
Field Fox ～初詣～

貂寡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Field Fox 〽初詣〽

【Nコード】

N3819D

【作者名】

貂寡

【あらすじ】

狐が女の子に恋をした。女の子についていく狐がいつの間にか霊力を持ち・・・いつの間にか人間になれる話。

僕は、狐という動物です。小さい頃は、山の中に暮らしていました。その山の禁に女の子がすんでいました。まだ3才ぐらいの女の子です。

僕は、その女の子を遠くの茂みでそつと見ていました。そうしているうちに女の子がどんどん成長していきました。

その代わり僕は年をとっていきました。だけど女の子を見ていました。

その頃、女の子は10才でした。

ある日、女の子が山に遊びに来ました。

女の子一人だったので後ろをついて行きました。

すると女の子の前に大きな犬が現れました。

女の子は、怖さでふるえていました。

僕も怖かったです。

だけど体が勝手に動いてその大きな犬にかみついていました。かみついてかみついて・・・

いつの間にか夕方になっていました。

大きな犬は、どこかに逃げて。僕の体はもう限界に近かったと思います。

側であの女の子が泣いていました。僕は、それがうれしくて。

今、魂だけになった僕は彼女を見守り続けています。

彼女は、気付いてはくれませんがいつの日にか気付いてくれることでしょうその日まで僕はここにいます。

僕が死んで数年たったある日のことでした。

彼女がどこかに出かけようとしていました。

彼女が車に乗り込みエンジンが掛かるので僕も急いで車の上によじ登ります。

ゆっくり車が出発しました。

僕には日付と言う物がないので今が何月何日かは解りませんが冬だと言うことはわかります。

車の中で彼女が何かおいしそうな物を食べています。

僕は、お腹が空くことはありませんが、

彼女が食べる物はお腹が空きそうになるほど食べて見たくありません。

周りの景色が変わってきました。

今さっきまで緑に茂っていた田畑が今は雪に埋まって真っ白い田畑に変わっています。

車の中の彼女は外の雪を見てうれしそうに笑っています。

僕も彼女の表情を見るとうれしくなります。

どこに行くんでしょうか。

僕は、ちよつとずつ不安になります。

車に乗って2時間くらいたち目的の場所に着いたようです。
僕は、まだここがどこだか解りませんが彼女のあとについて行きます。

10分ぐらいたったと思います。

出店が出て色々な物を売っています。

僕は、それを見ながら彼女のあとをついて行きました。

そうして赤い門のような物が僕の前にそびえ立ちました。

彼女とその家族はその門の中をくぐっていきます。

僕もくぐろうとしました。だけど足が何かにはまって動きません。

僕は、仕方がないのでその上を飛び越えます。

その時妙な力がわいてきました。

それで、僕はここがどこだか解りました。

僕たちの噂通りのところであればここは、稲荷神社だと思います。

鳥居を飛び越えると僕たちの力が1つずつ上がっていく所です。

彼女が今度は鳥居がたくさん並んでいる所を上がっていきます。

僕はそこを一気に飛び越えました。

彼女を待ちます。

その時、僕は自分の体の変化に気付きました。

いつの間にか自分の存在が大きくなっています。

人にも化けられるような霊力も得ています。

1回人になってみます。

あたりの人は、僕が狐だと気付きません。

僕はなんだかとても嬉しくなりました。

これで彼女の側で人間として暮らせます。

そうしているうちに彼女があのかくさんの鳥居をくぐってきたので・

僕は、また狐の姿に戻って屋根の上で彼女を見守ります。

彼女は、おみくじを引いたり参拝をしたりして過ごしています。ちよつと僕は鳴いてみます。

すると彼女がこっちの方を見てきよろきます。

姿は、見えないようですが

彼女は僕の存在を感じ取ってくれたようです。

車にまた乗って2時間、元の家に到着しました。

僕は、人に化けて1つ気付いたことがあります。

人に化けるとお腹が空きます。

けど、疲れはたまりません。噂に聞いていたよりはずっと楽なようです。

日付も解るようになりました。今日は、1月1日そう元旦の日です。

僕は、初詣に始めていったのです。とっても楽しい初詣でした。

そうして、今。僕は、彼女の通っている高校に通っています。

彼女は、僕のことを人間として認めてくれて・今僕の隣にいます。僕のとっても楽しい学校生活はまだまだ続いていきます。

今日、彼女の家族と初詣に行きました。

人間として初めての初詣。

今、破邪矢を手にとっています。

そのきれいな鈴の音と足音が僕の耳にはいい音でした。

彼女は隣で親が来るのを待っています。

きれいな音を聞いていた僕はいつの間にか狐に戻っていました。

そのことに気付いた彼女は、びっくりしたように目を丸くしています。

僕もなぜ戻ったのか解りませんでした。

だけど、彼女はそんな僕を見て悲鳴を上げずただ単に抱きしめてくれました。

僕は、そのことが嬉しかったです。

怖がらないで僕を抱きしめてくれる彼女……

そうしているうちに僕の体は、天に昇っていきました。

その時彼女が行っていました。

「今度、また来世で私の元にいらっしゃい。今度は、人間の姿でね。私は、知っていたのよ。」

あなたが私のことをずっと見ていたことを……本当にありがとう。そしてまた今度ね。」

僕は、その言葉を聞いて涙が出ました。

本当に彼女の側にいて良かった。本当に、本当に。

そうして、本当に人間になつた僕は
彼女の側にいて・・・
今も彼女の側で見守っています。

（後書き）

物語性は、ありません。

狐に生まれた男の子の生涯を書きたいと思いました。
本当につたない文章ですみませんでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3819d/>

Field Fox ～初詣～

2010年12月18日18時34分発行